



No. 101

ティー・ブレイク

Tea Break

一見似ていて非なるものの大きな違い

今年は、娘が中学に入学し、軟式テニス部に入学した。父親としては、将来、一緒にテニスができるのではと期待してうれしい限りである。しかし、ふと頭に浮かんだのは、“軟式テニス”というものは、普通、どのように思われているのだろうかということである。

私自身も、学生時代に軟式テニスをやっており、社会人となってから、硬式テニスを始めた。軟式テニスを経験した方も多いたと思うが、その違いについては、経験したことの無い人に比べれば、比較的良く分かると思う。

両者ともに、同じテニスコートに、ラケットで相手が打ち返せないところにボールを打ち、得点を取り、一定の点になると勝ち、というゲームである点で、一致している。2人が1チームとして戦うダブルスでも、一人対一人で戦うシングルスでも良い。このために、一般的には、それほど違わないスポーツであると考えられているのではないかと思う。

しかし、使うボールが異なっており、それに従って、ボールを打つラケットも、それに適した、異なったものを使用する。

軟式テニスのボールは、いわゆるゴムまりであり、柔らかく、従って、これを打つのに、小型の軽量のラケットを使用する。この小型軽量のラケットで、軽いボールを打つために、その打法は、硬式テニスと比べると全く異なっている。まず、

フォアハンドストロークを打つときは、ラケットのグリップを厚く握り、引いたラケットを振り出してボールを捕らえ、首に巻きつけるような感じで、一気に振り上げて、ボールに順回転を与えて、打ち出すのである。

一方、バックハンドストロークはというと、グリップを持ち替えずに厚く握ったまま、フォアハンドストロークと同じ面で、手首を逆に返して、一気に振り抜くのである。

フォアハンドストロークについては、硬式テニスでもラケットを厚く握って、打つ人もいるが、バックハンドストロークについては、硬式テニスでは、フォアハンドストロークと同じ面で打つ人はまずいないのではないかと思われる。

このような打法の違いは、軟式テニスのボールが、軽い柔らかいボールであるために、このボールを如何にスピードを乗せて打つかということを極めた結果生じたものであると思う。そして、これゆえに、軟式テニスと硬式テニスは、異なるスポーツとっていいほど、違うスポーツではないかとも、思うのである。

様々な場面に出くわす、一見似ていて非なるものの大きな違いを、よく認識してゆきたいものである。
(雅)